

揖保川せせらぎ公園

(バスから降車して説明：揖保川せせらぎ公園付近)

河川管理者

(ここでは、揖保川せせらぎ公園の概要について河川管理者より説明がありました。録音できなかったため、説明の記録がございません。)

浅見委員 対岸のほうの左岸側に少し白い礫原が見えるのが分かりますでしょうか。左岸上流のほうの礫原と左岸との間に湾入部がありまして、わんどになっております。先ほどからわんどの奥のところにサギの群れがかたまっております、おそらく小魚がいると思われま。それからもう少し下流にいきますと、水辺の草をタモ網ですくうと小さいエビだとかがいっぱい採れてすごく楽しいところがあります。向こうの堤防の上は車が通れるようになっていますが、その堤防に隣接するように林があります。その林と河原の中にある林とが一体となって、エノキ林をつくっています。夜比良の渡しと呼ばれているところですが、昔は、エノキ林が一带にあったんだというのが分かります。おそらく自然堤防として固定されていて渡しに利用されていたのではないかなと思います。少し下流のほうに目を転じていただきますと、真ん中に中洲があって高木のヤナギがある。中流景観と上流のほうの砂礫の景観の2種類があります。ちょうど直轄管理区間内の上流景観的な要素と、それから中流的な要素が混ざり合っているの感じです。あるいは大きな流域という目で見ると、下流の景観として上流部の景観が混ざり合っているというふうにも言えるのではないのでしょうか。夜比良の渡しのほうはちょうど屈曲部、流れの曲がるところで水に浸ることもありますので、砂礫があったり、カワラナデシコ、カワラサイコといったものがあつたりします。それから秋の七草のひとつであるフジバカマの自生地が揖保川で初めて見つかりまして、これも全国の1級河川ですと11河川ぐらいいしか認定されておりませんので、大変貴重なものの自生地が見つかっております。

下流に目を転じていただきますと、このあたりは中洲のところが入り組でおりまして湾入部になっているところもあります。それから左岸側のほうも橋のほうから見ますと、湾入部がありましてカワセミがいたり、あるいはイシガメがいたりします。このあたりから下流には、とんぼ池として湾入部を人工的に作っておりますが、このあたりには自然の状態でそういったものがあつたんだと思われま。それが徐々に減ってきてまして、もう一度とんぼ池というかたちで復元されていらっしゃるのではないかと思います。

それからこちら右岸側は「水辺の楽校」として整備したところですよ。おそらくここも自然に触れ合えるというのを、テーマにされているのではないかと思います。では、その時の自然というのは一体何を指しているのか。ここのグラウンドにやってきてお弁当を広げて、「ああ、今日は川に触れた、自然に触れたなあ。」と思うのでしょうか。それともエビとかをすくって遊べる自然というのを想像するのでしょうか。そのあたりをやはり流域委員会のほうで詰める必要があるのでは

ないかということを感じております。

最後に、何度もいいますが、今日は上流・中流・下流それから河口域とを見ることができました。横断面についても説明させていただきました。この位置から大変見にくいんですが、あのヤナギのある位置というのはだいたい水面から 60 センチぐらいのところですが、こちら側の高水敷のところは水面から 1 m 以上上がったところになるかと思います。元々このあたりには、オギ原があって写真家の方などが撮影しに来られていたということも聞いていますが、水面から 1 m 以上高い高水敷は干上がった環境となり、都市の中の公園と同じで芝生として整備されてしまうと、オギ原というのは成立しえません。このあたりを少し理解していただければと思います。